

整形外科外来だより

No 13 2007/09/01 けいゆう病院 整形外科 発行

◆月曜日の初診はご迷惑をおかけしています◆

立秋を過ぎて朝夕は少しずつ涼しくなってきましたが、秋は何故か腰痛のシーズンです。お気をつけ下さい。ところで毎週月曜日は初診の患者さんが多く来院され、待ち時間が長くなってしまいご迷惑をおかけしています。手の空いているドクターが手分けして診るようにしていますが、手術もあり医師も不足しています。出来るだけ他の曜日に変更していただくようお願い致します。



◆漢方で治る下肢の痛みとは◆

今回は下肢の痛みのお話です。今の時期暑いせいか夜間から明け方にかけて下肢の痙攣と痛みを感じる方が増えてきます。これは「下肢のこむら返り症」が原因で、暑さから来る脱水、電解質異常が原因ではないかと考えられています。膝から下の筋肉が痙攣して硬くなり、大変痛いのです。日中に起こることもあります。しかししびれは少なく、痛みも歩くとひどくなることはありません。それどころか発作のときは痛くて歩けないことが多いです。年齢的には中年以降の女性に多い印象です。

一方、腰部脊柱管狭窄症では歩くと下肢のしびれと痛みが強くなって、歩きが休み休みとなってしまう間歇性跛行という症状が特徴的です。真っ直ぐ仰向けで寝ると足がしびれて痛む、足がしびれて長く台所に立ってられない、まっすぐ立つと下肢がしびれるので前かがみで歩いてしまう、歩きが休み休みとなってしまう、奥さんに置いていかれてしまう場合も腰部脊柱管狭窄症の可能性が高いです。

こむら返り症には漢方で特効薬があります。「芍薬甘草湯」がその薬で夜寝る前に1包服用して寝ると夜間の攣れが起こらなくなり、ゆっくり熟睡できます。同じような症状でお悩みの方は是非主治医にその旨申し出てください。

腰部脊柱管狭窄症の症状にはまだ漢方の特効薬はなく、唯一保険適応が認められているのが「オパルモン」と言う薬です。この薬は下肢の血行を改善して、狭窄症からくる坐骨神経痛を治す薬です。南極越冬隊やエベレスト登山隊の凍傷予防にも活躍した薬です。オパルモンでは治らない場合にはさらに強力に血管を広げる注射薬があります。外来では「パルクス」という白く濁った薬を使用しています。すでに経験済みの患者さんもしらっしゃると思いますが、この薬は効果を発揮する為には1週間に2回以上注射しなければならないので、症状の重い方は入院して14回行っています。(文責 鎌田修博)